

回覧

どやのメール 市民活動ニュース

「どやの」とは、福井弁で「どうですか?」「いかがですか?」という意味で、ボランティア活動など「ちょっと始めてみませんか?」という思いが込められています。

2015年10月号(第25回)

サバフェス 開催

9月12日(土)からの3日間、鯖江の各地で開催された「サバフェス」。

多くの市民が関わり、楽しみ、盛り上げたこのイベントを、
13日(日)の内容を中心にレポートします。



「焼き鳥合衆国」は、いつもながらの大にぎわい

●西山公園の3大イベント

朝、通り過ぎた大粒の雨もやみ、秋晴れの穏やかな日差しの中スタートした日曜日の「サバフェス」。

西山公園の芝生広場には、恒例となった「焼き鳥合衆国」に大勢の人たちが訪れました。

今年は「Y-1 グランプリ」と題し、人気No.1のお店を選ぶ投票イベントを開催。家族連れ、カップル、友達同士が、大人も子供も大きな口で焼き鳥をほおばり、「お気に入り」の投票先に一票を投じていました。

試食をススめる店員さん、人気店の列に並び、待つ時間の会話も楽しむお客様。いつもながらに活気にあふれる風景です。

一方、中央広場の「さばえクラフトマーケット」も大好評。ずらりと並んだお店には、鯖江特産のメガネを使ったボールすくいや、様々な手作り体験ができるところもあり、子供たちが真剣な顔つきで、ものづくりを楽しむ姿が。

他にも手作り雑貨や石鹼、アクセサリー等、カラフルで可愛いものが溢れていて、どのお店にも立ち止まらずにはいられません。

そして噴水前広場での「さばえNPOまつり」。

市内の市民活動団体を紹介するパネル展示、団体の特色を生かした体験コーナーも大盛況！ 今年は、会場を舞台に「リアル型脱出ゲーム」も企画され、「ナゾ」解きに頭を悩ませながらも、家族や友達同士助け合い、最後に脱出できた達成感に、たくさんの笑顔が弾けていました。

裏面につづく▶



編集・お問い合わせ 「どやのメール」は、鯖江市との協働事業で発行しています。

特定非営利活動法人 さばえNPOサポート

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL : 0778-54-7055 FAX : 0778-54-7058

Email : info@sabae-npo.org

♥誰でも気軽に使える情報発信♥
鯖江市内の市民団体ならばイベントやお知らせを掲載できます。

ホームページ : <http://www.sabae-npo.org/>





●センスも楽しい「めがねフェス」！

こちらは「めがね会館」の「めがねフェス」。どんな感じ？…と思いつつ会場に入ると「めがねの供養塔がある!!」「めがねのおみくじもある!!」鯖江に住んでる人にも、これはなかなか新鮮です。

雰囲気はとてもアットホーム。こじんまりと大人も子どもも楽しめる空間が広がり、特設ステージではミュージシャンたちが演奏中。

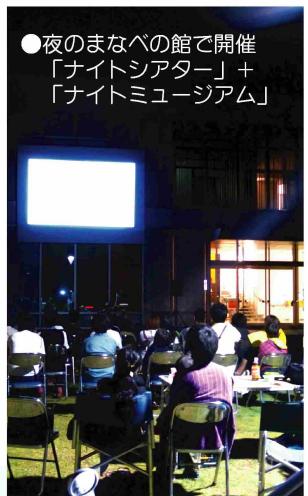
ワークショップ、ゲームなど、“めがね”をキーワードに多彩なブースがてんこ盛り。もちろん、おいしい匂いを漂わせているお店もあって、あっという間に時間が過ぎていきました。



●メガネリンピック競技種目「めが盛り」！



●誠照寺境内では早朝から「誠市」も



●夜のまなべの館で開催
「ナイトシアター」+
「ナイトミュージアム」

●「さばえ」という魅力の発信

本町界隈の「ご縁市」、まなべの館の「シンポジウムアニメーション王国さばえ」、14日(月)に開かれた「鯖江市地域活性化プランコンテスト公開プレゼン」も含め、市内各所で各日時に催された「サバフェス」。これだけのイベントの集中開催ができたのは、市民パワーの下支えがあるからこそでしょう。

西山公園の会場には、市外県外からの訪問者も多くありました。

もしかすると、そんな「さばえ」の魅力とは、ひとりひとりの「人」の魅力が集まって出来上がっているのかもしれませんね。

「サバフェス」に思う。

今年で2回目の開催となった「サバフェス」。多くのイベントが、各地で同時に開催されました。が、関わった人たちは、どんな思いで準備をし、当日を迎えたのでしょう。「訪れた人たちに楽しんでもらいたい」また、「自分たちの活動や製作物を知ってもらいたい」など、それぞれの思いもあったことでしょうが、みんなに共通しているのは、「自分

たちの住む地域を、鯖江をもっと盛り上げたい」というものだったのではないでしょうか。

めがねフェスで耳にした、「こんなことしかできんけど、おんなじ町内のイベントやで、なんか盛り上げられんかと思って参加したんや。」という言葉が、そのことを象徴しているように思えます。

